鞭　掛　遺　跡

福岡県筑紫野市大字天山所在遺跡の調査

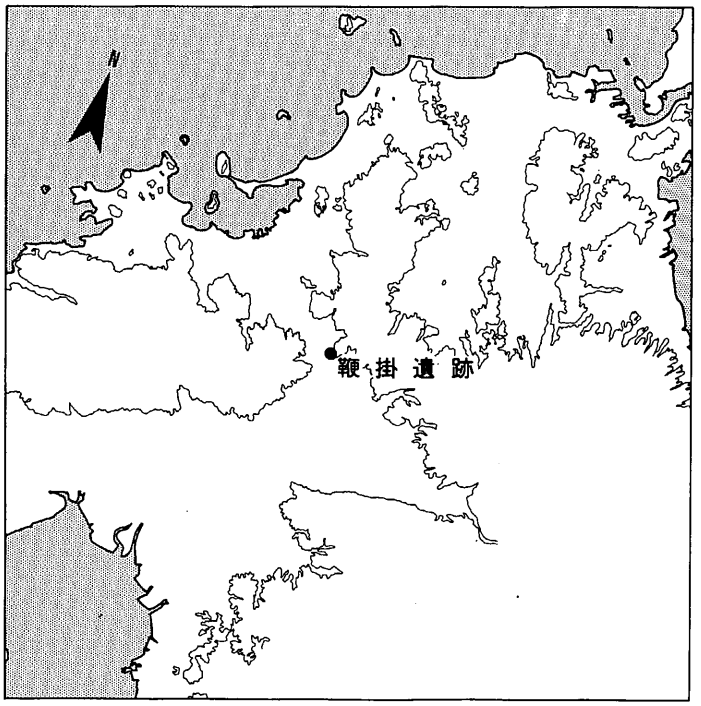
筑紫野市文化財調査報告書

第 17 集

1 9 8 7

筑紫野市教育委員会

鞭掛遺跡（むちかけ）



序

この報告書は、花き等地方卸売市場の移転に先がけて発掘調査した鞭掛遺跡の500㎡に渉る調査結果であります。

溝や土壙などが発見され、さらに附近には今回の発掘以上の遺跡があることを示唆するに至りました。

この調査にあたり御協力を賜わりました関係各位に対し感謝申し上げますとともに、本書が文化財保護の認識と理解および古代史の解明に少しでも役立てば幸に存ずる次第であります。

昭和62年3月31日

筑紫野市教育委員会
教育長　松田　康男

例　言

1．本書は、福岡県筑紫野市大字天山587番地外515㎡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．調査は、九州日観植物株式会社の委託を受けて筑紫野市教育委員会が実施した。
3．実測および写真撮影は、奥村俊久があたり、整図は鶴味加代子が行なった。
4．本書には末尾に地方卸売市場本体工事地区の試掘調査記録を掲載する。
5．本書の執筆・編集は奥村が行なった。

目　次

Ⅰ　調査に至る経過……1頁
Ⅱ　位置と環境……1
Ⅲ　調査の内容……4
Ⅳ　ま　と　め……6
付　卸売市場予定地試掘調査……7

I　調査に至る経過

昭和61年３月28日に、九州日観植物株式会社から、花き等園芸品の地方卸売市場移転新設に伴う埋蔵文化財の有無について、筑紫野市教育委員会に依頼があった。市教育委員会では現地を踏査した結果、埋蔵文化財が包蔵されている可能性があるため、試掘調査が必要である旨の回答を行なった。その後の協議で、市場本体と進入路部分を分けて試掘調査を実施する事となり、昭和61年７月４日付けで、進入路部分の埋蔵文化財試掘調査委託契約書を締結した。試掘調査は、７月17日から19日までの３日間、バックホーによる遺構面観察を行ない、進入路予定地の中央部から、２条の溝状遺構と土壙が確認され、うち１条の溝状遺構の上面から弥生式土器片２個が出土した。この結果をもとに協議を重ね、発掘調査を実施する事となり、同年８月19日付けで埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結した。発掘調査は、同年８月25日から開始し、同年９月12日をもって現地での調査を終了した。

調査組織については下記のとおりである。

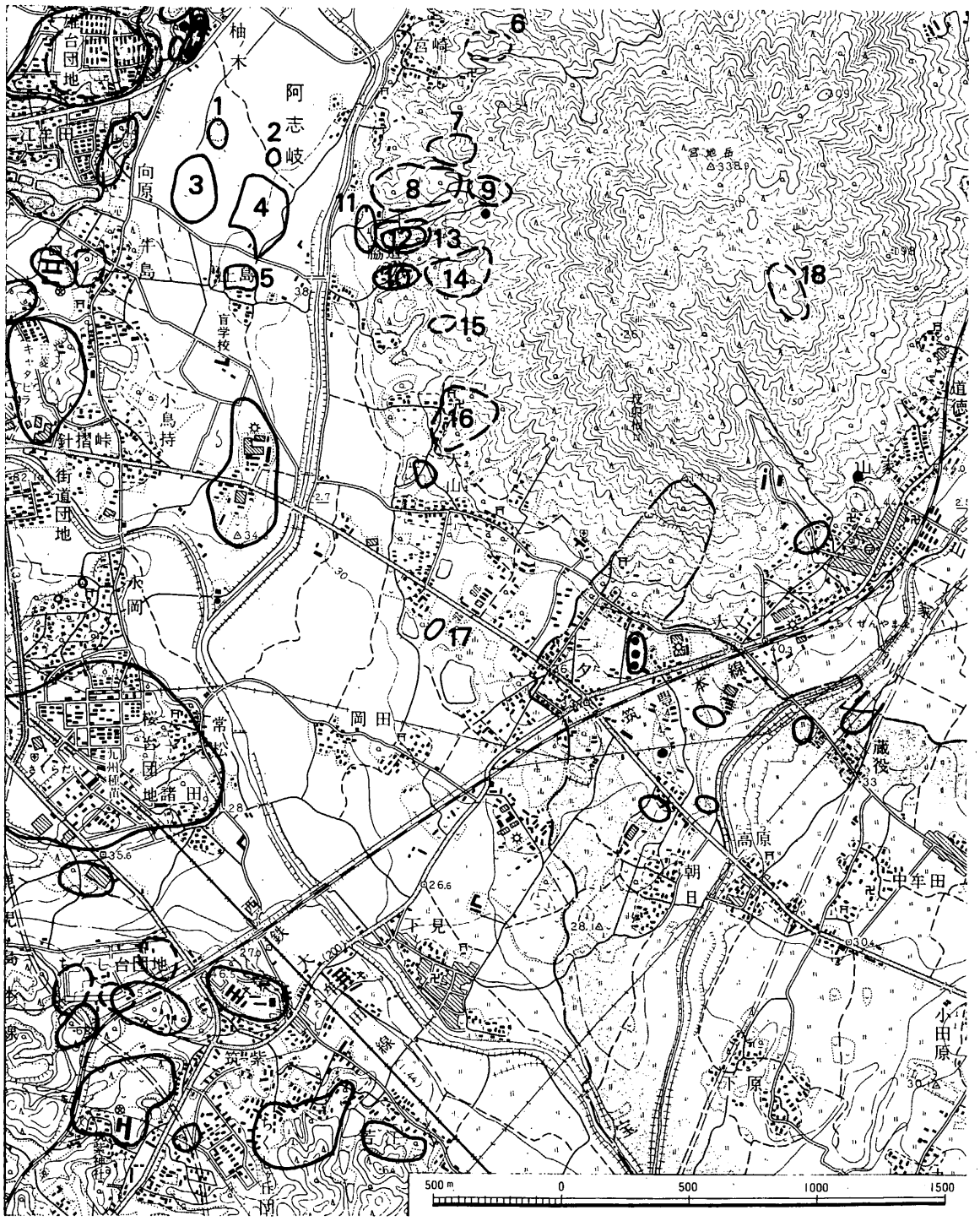
総　括	筑紫野市教育委員会	教　育　長	松田　康男
庶　務	同	社会教育課　課長	山村　　茂
	同	文化財係　係長	山野　洋一
	同	同　主事	奥村　俊久
調　査	同	社会教育課 文化財係主事	奥村　俊久

現場作業員　楠田正喜、黒岩エイ子、高尾シズヨ、中川一生、中川秀吉、中川ユキエ、平嶋照子、古川重徳、八尋スマ子、八尋ヒサ子、（五十音順）

II　位置と環境

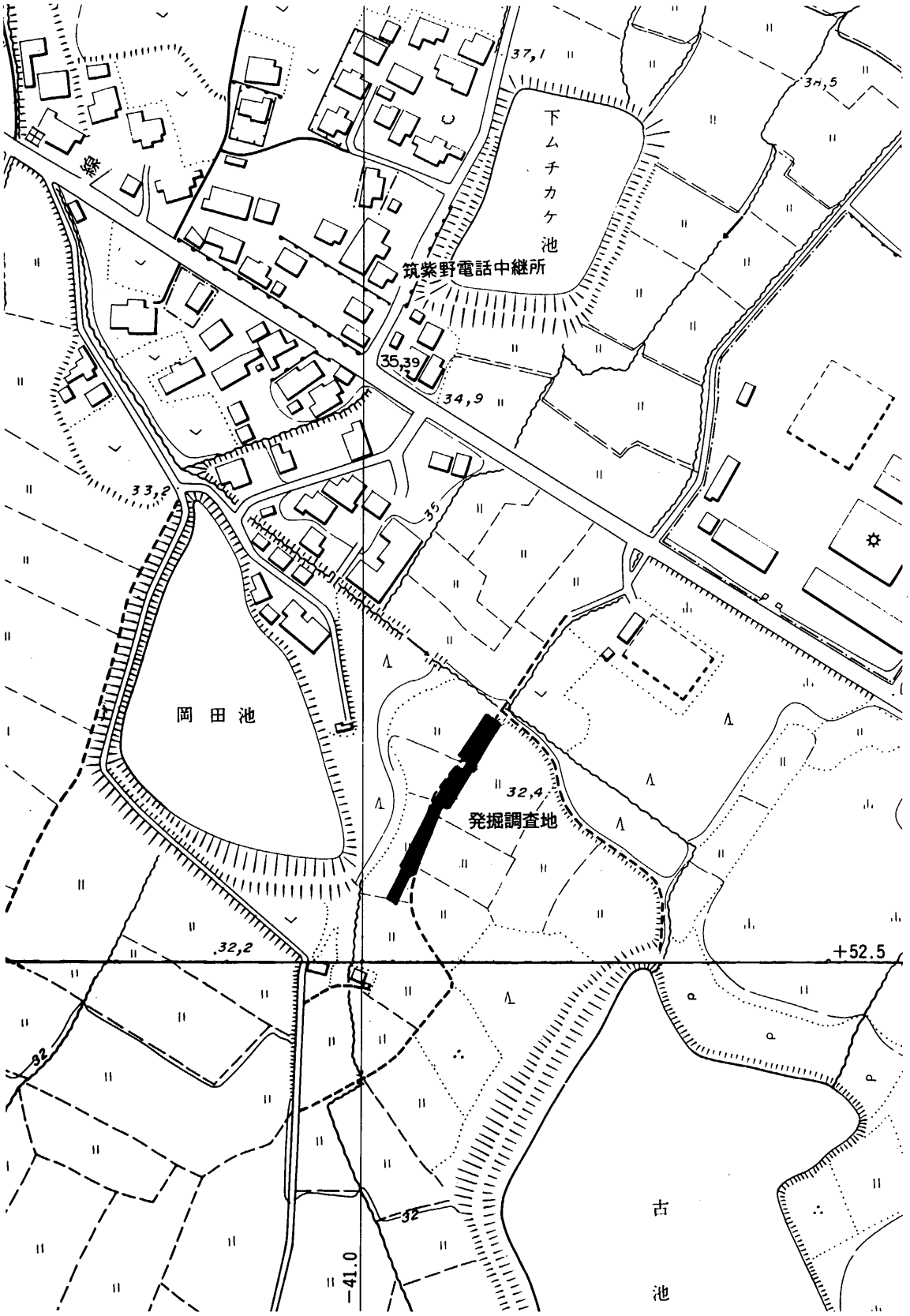
遺跡は筑紫野市大字天山587番地外に所在する。

筑紫野市は、福岡市と久留米市のほぼ真中に位置し、筑前国の南端に当る。市の西には背振山塊、北東には三郡山塊が迫り、その間に狭長な筑紫野の平野がある。平野部は北西に福岡平野を、南に筑紫平野を望む。市内の北西には鷺田川があり、御笠川と合流して博多湾に注ぐ。東には筑紫平野北部を潤し、筑後川と合流し、有明海に注ぐ宝満川がある。宝満川は三郡山を源に、その東麓を回り込むように流れた後、御笠地区遺跡[註1]の所在する吉木・阿志岐の田畑を潤し、永岡付近で九千部山に源を発する山口川と合流する。遺跡はこの合流地の東側、宮地岳（338.9m）の南側裾部に位置する。宮地岳山麓には数多くの古墳が知られ[註2]、西側裾部には阿志



第1図　鞭掛遺跡周辺遺跡分布図（縮尺1/25,000）

1．御笠地区遺跡C地点　2．御笠地区遺跡D地点　3．御笠地区遺跡E地点　4．御笠地区遺跡F地点　5．御笠地区遺跡G地点　6．杉の谷古墳群　7．阿志岐古墳群D群　8．阿志岐古墳群B群　9．阿志岐古墳群C群　10．脇道遺跡　11．宮崎遺跡　12．シメノグチ遺跡　13．阿志岐古墳群A群　14．脇道古墳群　15．老松神社古墳群　16．天山古墳群　17．鞭掛遺跡　18．殿様塚古墳群



第２図　鞭掛遺跡周辺地形図（縮尺1/2,500）

岐シメノグチ遺跡[註3]などの弥生時代の遺跡や、さらに平野部まで下ると、前述の御笠地区遺跡がある。また、東側でも裾部を流れる山家川を挟み対面する平野部に弥生時代から古墳時代の遺跡が多い[註4]。本遺跡のある南側裾部は、これまであまり遺跡の所在が知られていなかった地域である。

註

註1　「御笠地区遺跡」　筑紫野市文化財調査報告書第15集　1986　筑紫野市教育委員会
註2　宮地岳には装飾古墳である殿様塚古墳を始め、現在まで80基程度の古墳が確認されている。このうち10基について発掘調査が実施されている。
「阿志岐シメノグチ遺跡」　筑紫野市文化財調査報告書第1集　1976　筑紫野市教育委員会
「杉の谷古墳群」　筑紫野市文化財調査報告書第2集　1979　筑紫野市教育委員会　同報告書第3集と合冊
「阿志岐古墳群」　筑紫野市文化財調査報告書第7集　1982　筑紫野市教育委員会
「阿志岐古墳群II」　筑紫野市文化財調査報告書第12集　1985　筑紫野市教育委員会
註3　「阿志岐シメノグチ遺跡」　筑紫野市教育委員会第1集　1976　筑紫野市教育委員会
註4　山家地区遺跡として、昭和60年度より発掘調査が実施されている。

III　調査の内容

遺　構

SM01

北西一南東に方位をとる幅約2.6m余りの溝状遺構である。底に近い位置から激しい湧水があり、下位の形状は明瞭さを欠くが、V字状を呈し、上方は大きく開く。包土のほとんどは砂である。

SM02

北西一南東に方位をとる幅40cmほどの浅い溝状遺構である。

SM04

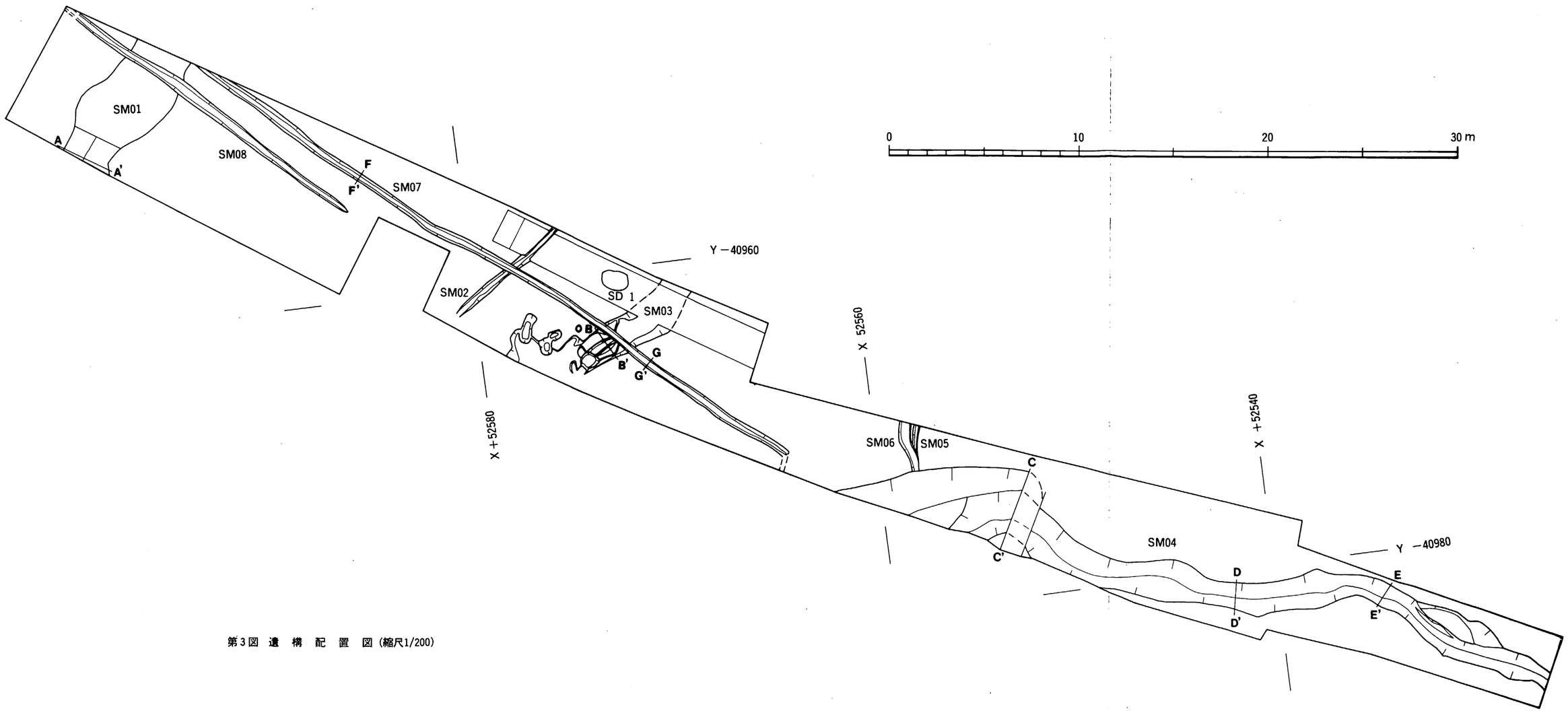
調査区の南側で検出された溝状遺構である。北北東一南南西にやや蛇行して走る。断面は北側が、上方を大きく開き、下位は開角が広いV字状を呈す。中ほどから南側にかけてはU字状を呈す。包土は砂が大半であるが、粘質土もみられる。

SM05

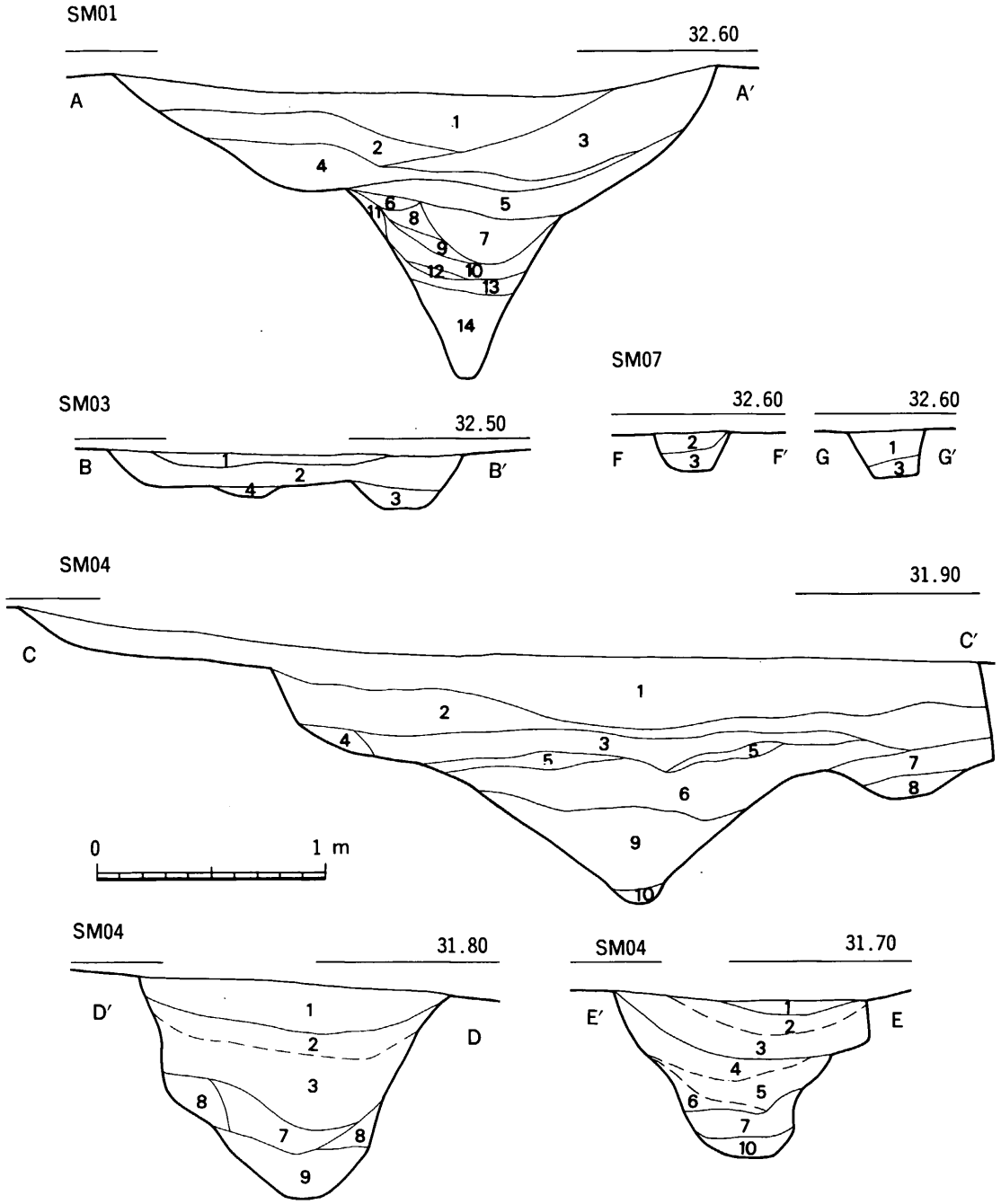
SM04北部東で検出した幅30cmほどの浅い溝状遺構でSM06に切られる。

SM06

SM05を切る幅50cm前後の浅い溝状遺構で、SM04との切り合い関係は確定しえなかった。



第3図 遺 構 配 置 図 (縮尺1/200)



第4図 溝断面実測図（縮尺1/30）

ＳＭ07

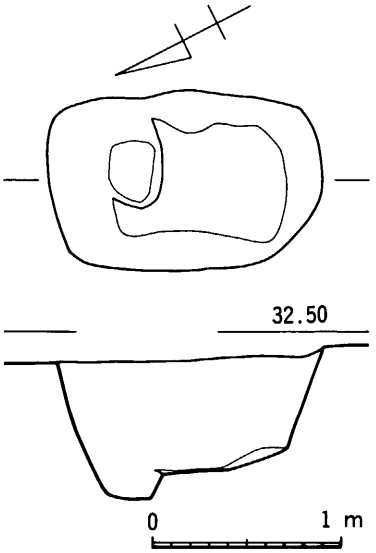
北北東一南南西に走る幅30cmほどの、断面逆台形をした溝状遺構である。埋土は上位が砂、下位が粘質土である。

ＳＭ08

ＳＭ07の西側を平行して走る溝状遺構で、その間隔は1.5mほどである。遺構の形状はＳＭ07と同様である。

ＳＤ01

1.5×１ｍる測る略方形プランを呈す土壙である。底まで約60cmを測り、さらに北東隅に深さ15cmほどのピットがある。



第５図　SD01実測図（縮尺1/40）

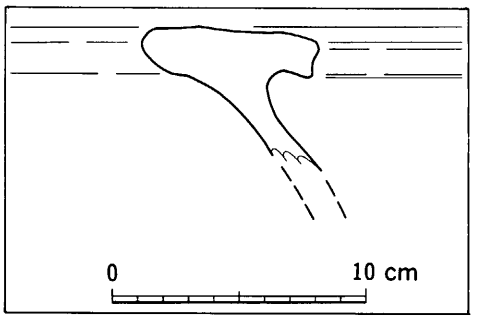
出土遺物

ＳＭ01

試掘調査時に遺構面より弥生式土器胴部片が出土した。

ＳＭ04

Ｉ層から大形甕（甕棺）の口縁部破片が出土した。口縁部はＴ字形で、口縁直下より大きく張る。色調は黄褐色を呈し、１～２㎜大の砂粒が多い。焼成は良好である。



第６図　SM04出土土器実測図（縮尺1/3）

ＳＭ06

黒褐色の釉体に黄緑色の釉をたらした陶器片や染付の小片が出土した。

その他、ＳＭ02の南側20cmほどの遺構検出面から土師器小片が出土した。

Ⅳ　ま　と　め

調査区周辺は、かなり旧地形が失なわれており明瞭でないが、東西の地形がやや高くなっており、調査区部分は浅い谷状となっているものと思われる。遺跡の中心部は、東西の高い部分に弥生時代を中心とした時期のものが所在すると推定される。特にＳＭ01・ＳＭ04は遺構の形状などから、それらの遺跡に関係することも考えられるが、現在の段階では憶測の域を出ない。

ＳＭ06については出土した遺物より近世以降のものであろう。また、ＳＭ07・ＳＭ08は、その形状や平行して走る点から幅１～1.5mの道の両側に施された側溝であろう。ＳＭ07の南端は遺構と直角に土管が埋められており、土管の形状なども考慮して近世以降のものと考えられる。ＳＤ01の性格は明確でないが、埋土のしまりは弱く、極端に古い遺構とは考え難い。

溝状遺構断面図土層観察表

ＳＭ01	1層	黒色粘土層（粒子が極めて細く，しまりが強い）
	2層	黒色砂層
	3層	黒褐色砂質土層（粘質があり，しまりが良い）
	4層	黒灰色砂層
	5層	黒褐色砂質土層（３層に類似するが，３層よりも黒色味が強い）
	6層	黒褐色砂質土層（５層に類似するが，砂の割合が多い）
	7層	黒灰色砂質土層
	8層	黄灰色砂層
	9層	黄灰色砂層（鉄分が多い）
	10層	白灰色砂層
	11層	黒灰色砂質土層
	12層	淡灰色砂層
	13層	黒褐色粘質土層
	14層	暗灰色砂層
ＳＭ03	1層	黒色土層
	2層	黒褐色砂層
	3層	淡黒褐色砂層（堅くしまっている）
	4層	黒色砂層（堅くしまっている）
ＳＭ04 (a－a′)	1層	黒褐色土層（褐色味がやや強い）
	2層	黒色土層
	3層	黒色砂質土層
	4層	黄白色粘質土層（地山土に黒色土が混入）
	5層	黒褐色砂質土層（暗灰色砂層）
	6層	黒褐色砂質土層
	7層	黒褐色粘質土層
	8層	暗灰褐色砂層（やや鉄分がある）
	9層	黒色粘質土層（炭化物が混入）
	10層	黒色砂層（粒子が細かい，炭化物が混入）
(b－b′ c－c′)	1層	黒色砂質土層（粘質を帯びる）
	2層	黒灰色砂質土層
	3層	黒褐色砂質土層（黒色砂質土層＋暗灰色砂層）
	4層	暗灰色砂層（やや粗い砂）
	5層	黒灰色砂層（やや粗い砂）
	6層	灰褐色砂層（やや粗い砂）
	7層	黒色砂質土層（１層のように粘質は帯びず，粒子が粗い）
	8層	褐色砂層
	9層	黒褐色砂質土層（２層に比べ黒色味が強い）
	10層	黒色粘土層
ＳＭ07	1層	黒色砂質土層
	2層	淡黒褐色粘土層
	3層	黒色粘土層

付　卸売市場予定地試掘調査予定地

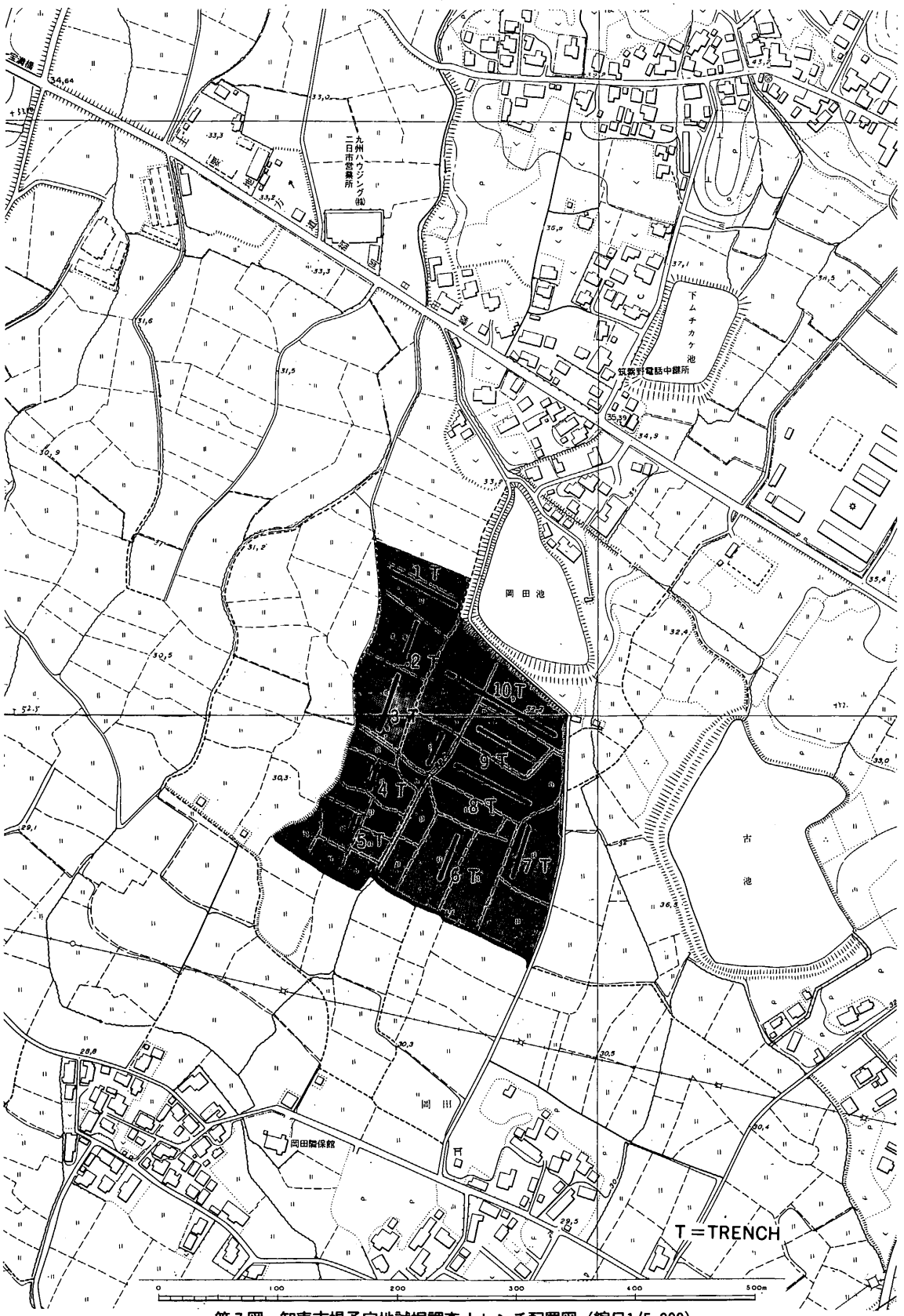
１．はじめに

九州日観植物株式会社の花き等園芸品の地方卸売市場移転新築新設に伴う埋蔵文化財の有無については、本報告書前述のとおり進入路部分のみ先行して実施し、発掘調査を行った。ここでは、発掘調査と前後して行った市場本体工事予定地分の試掘調査について報告する。

試掘調査は、筑紫野市が九州日観植物株式会社の委託を受け、昭和61年８月19日付けで埋蔵文化財試掘調査委託契約を締結し、８月23日、25日の両日、バックホーによる遺構面観察を行った。

２．調　　査

第１トレンチでは、現地表下約40cmの所で遺物包含層（黒色土層）が観察され、さらに20cmほど下で遺構を確認したが、遺構は包含層中より切り込まれている可能性がある。その他のトレンチからは第２・３・10トレンチで小ピットを認めたが、形状・大きさ・集中度などから人為的なものではないと考えられる。遺物は第１トレンチからのみ出土した。



第７図　卸売市場予定地試掘調査トレンチ配置図（縮尺1/5,000）

3．遺　物

1は須恵器の甕である。口縁部は欠失すが、胴部最大径は15.3cmで、底部はやや尖り気味の丸底を呈す。頸部と胴部最大径位に波状文が施され、胴部波状文の上位に凹線をめぐらす。タタキは底部に残るが、肩部はヨコナデ、胴部波状文下はカキ目で消されている。穿孔は胴部波状文の所に外面やや上方からあけられている。内面は全体にヨコナデされ、底部には棒状木口によるタタキアテ具痕が残る。色調は灰色を呈し、胎土には精選粘土を使用しており、焼成は堅緻である。

2は須恵器の長頸壺である。頸部途中から口縁部にかけて欠失する。胴部最大径は12.6cmで、底部はやや平らな丸底である。胴部最大径位には櫛状工具による刺突文がめぐり、以下底部にかけて丁寧な回転ヘラ削りが施される。また、肩部にはヘラ書きによる7本の沈線が描かれる。

器壁は肉厚で、胎土は微砂粒をやや多く含む。色調は淡青灰色を呈し、焼成は堅緻である。

3は土師器の甕で、口径14.4cmを測る。口縁部はやや外反し、胴部の張りは一部分しか残っていないため明瞭でないが、あまり強くないようである。外面胴部は刷毛目が施され、外面肩部から、内面口縁部に至るまでヨコナデが施される。内面胴部はヘラ削りが行われる。色調は赤褐色、胎土は1～2㎜大の砂粒をやや多く含み、焼成は良好である。

4はいわゆる山陰系と呼ばれる土師器甕の口縁部片である。色調は黄褐色を呈し、1㎜大の砂粒をやや多く含む。口縁部内面に僅かに刷毛目が残る。

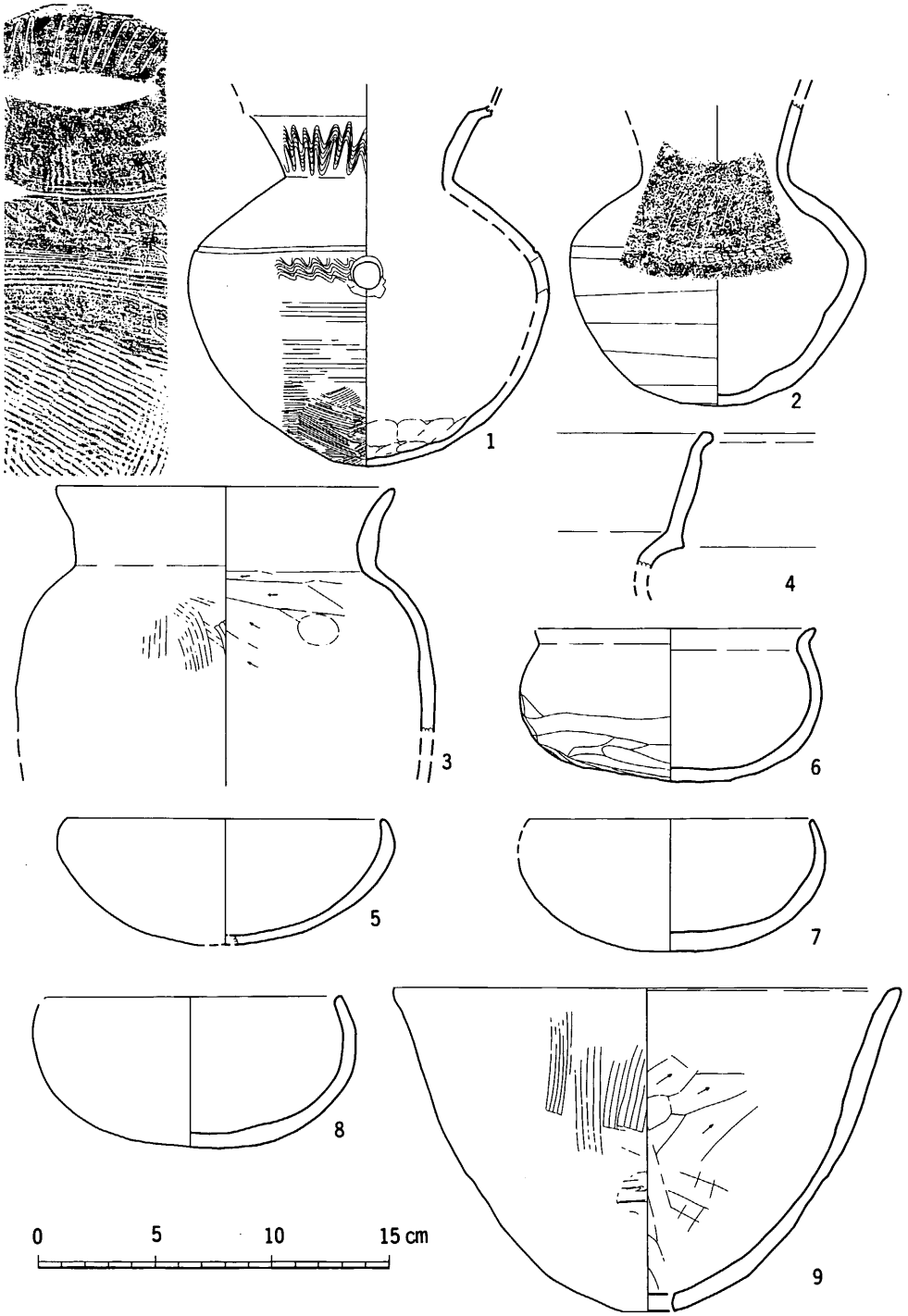
5～8は土師器椀である。それぞれ口径13.5，11.8，12，12.6cm，器高5.4，6.6，5.7，6.5cmを測る。5・7・8は胴部から内弯して口縁部に移るが、6はやや張った胴部から、口縁部は「く」字状に短く屈曲する口縁部に至る。5は刷毛目を施した後ヨコナデし、さらに丁寧なミガキを内外面全体に施す。7も同様の手法と考えられるが、刷毛を当てた痕跡は残っていない。6は5・7と同様に刷毛目を施し、ヨコナデするが、その後、胴部下半に静止ヘラ削りを行うのみである。8は6と同様の調整を施すが、さらに胴部上半に粗いミガキが認められる。

9は土師器の甑である。残存部が少なく、底部の穿孔を中央と仮定して復原した。口径21.4cm、器高13.9cmを測る。口縁部は僅かに外反し、ゆるやかな弧を描き底部へ至る。外面は刷毛目が施されるが、焼成前に寝かせて置かれていたのであろうか、板状圧痕がみられる。内面はヘラ削りされ、口縁部は内外面ともヨコナデされる。

4．ま と め

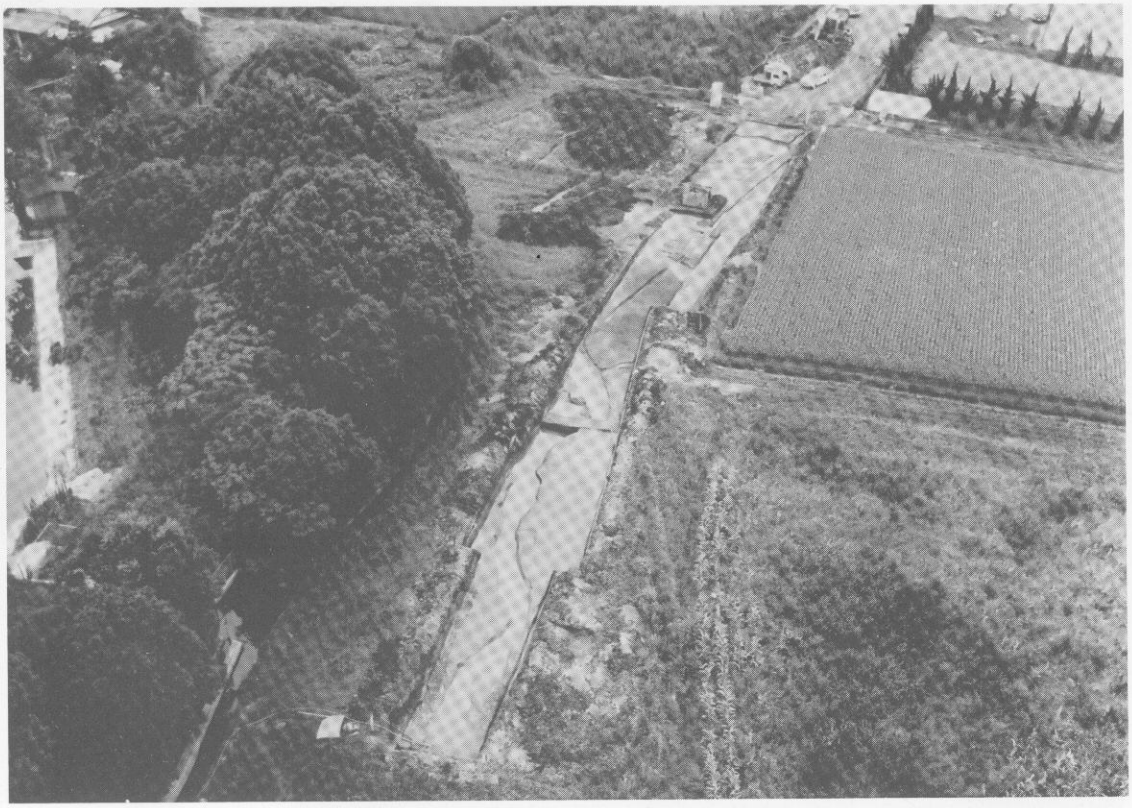
遺物・遺構ともに検出された第1トレンチを設定した所は周辺より1mほど高く、宮地岳より南に延びる裾部の先端に当る。

出土した遺物を見る限りにおいては、いずれも古墳時代の範疇に収まるもので、古くは4のような甕がみられる事から古式土師器の時期の遺構と考えられる。1は陶邑編年Ⅰ型式に属す大形甕で、他の土師器椀や甕を含め調査地区周辺は古墳時代前半を主体とする住居跡群と推定される。



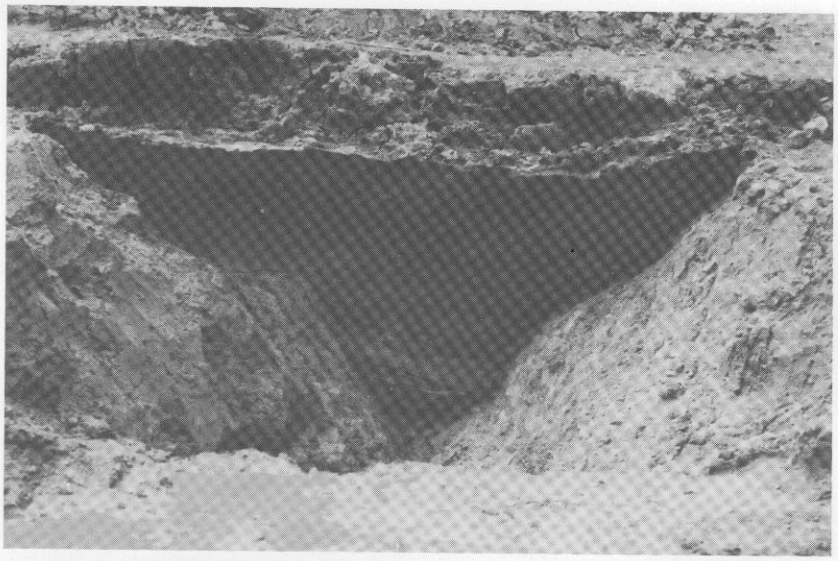
第８図　第１トレンチ出土遺物実測図（縮尺1/3）

図　　版

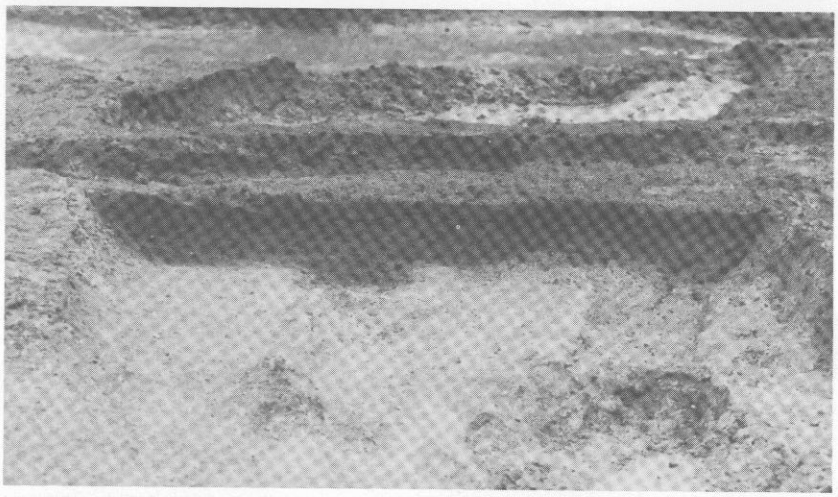


調査区全景

図版 2



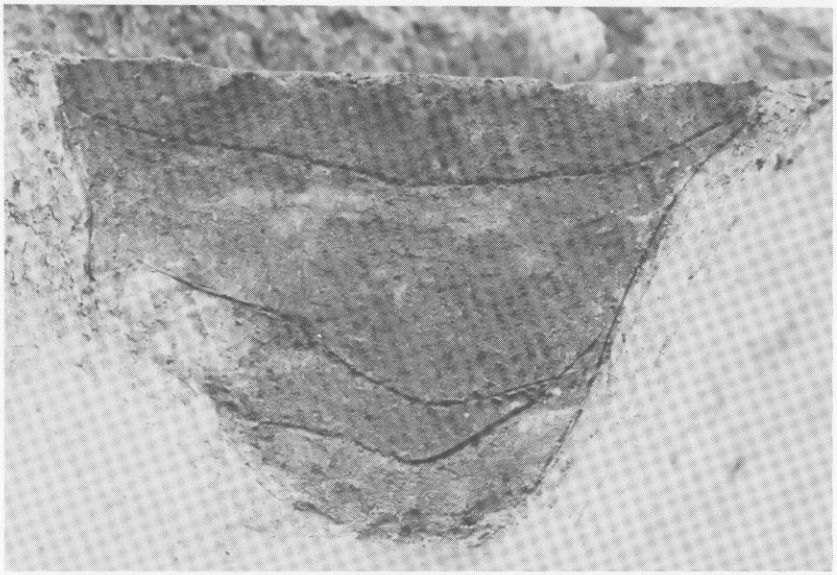
ＳＭ01Ａ－Ａ′断面



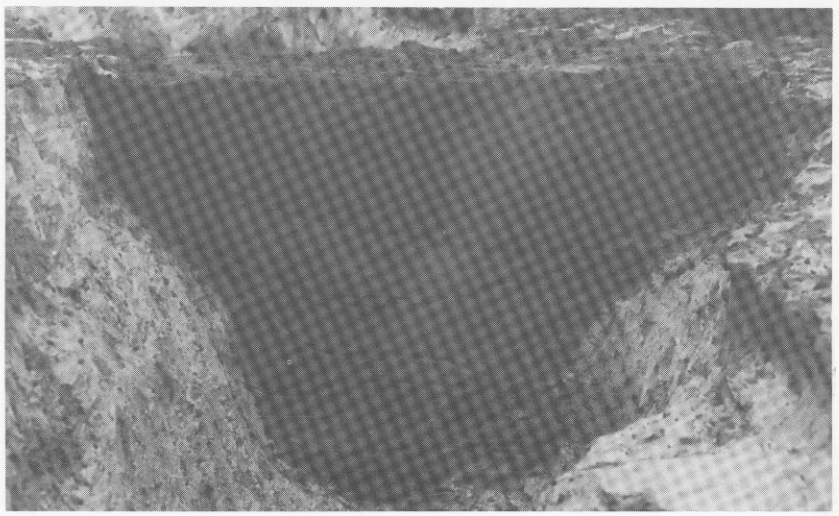
ＳＭ03Ｂ－Ｂ′断面

ＳＭ04全景

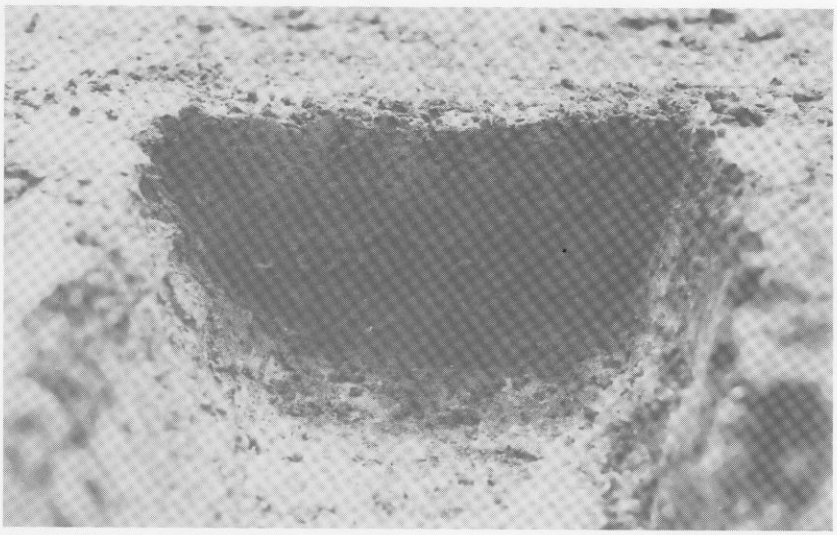
SM04C－C′断面



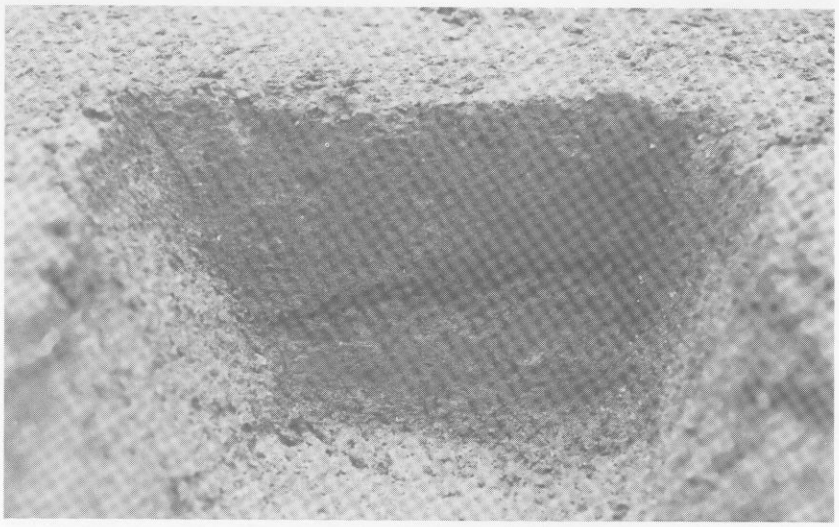
SM04D－D′断面



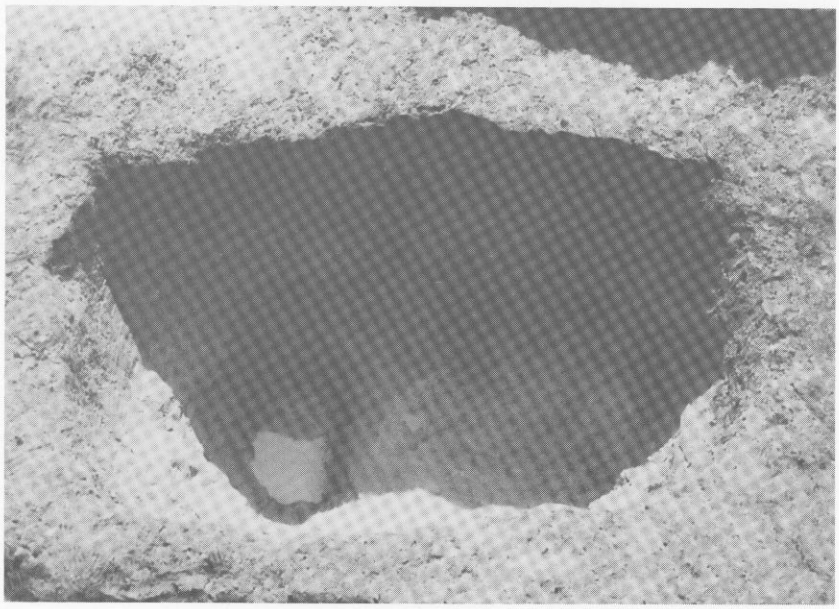
SM04E－E′断面



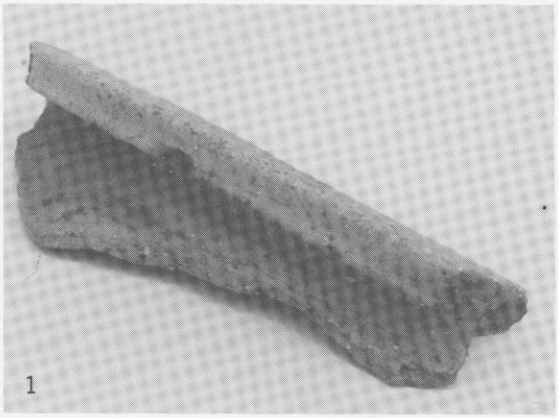
SM07F－F′断面

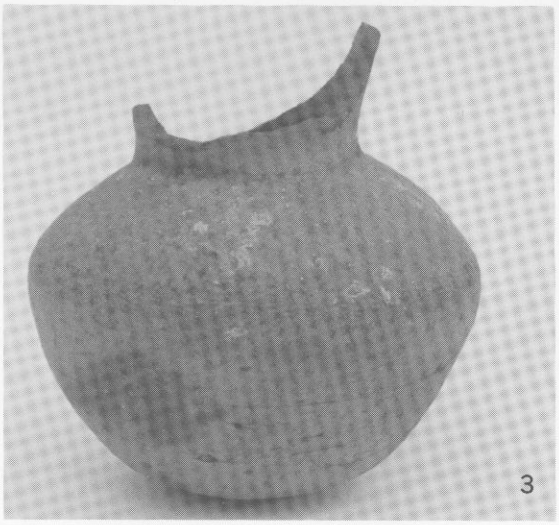


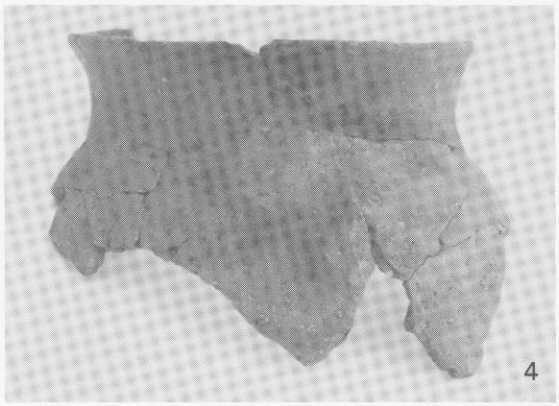
SM07G－G′断面

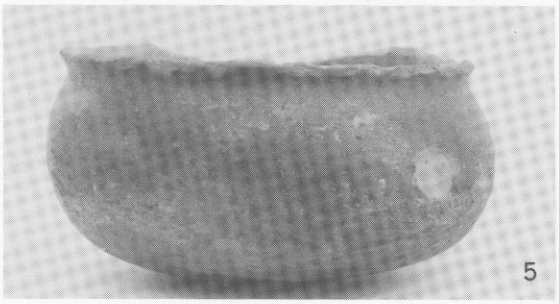


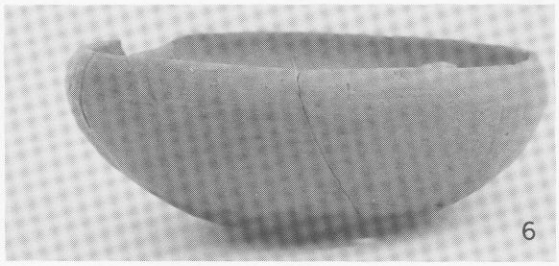
SD01

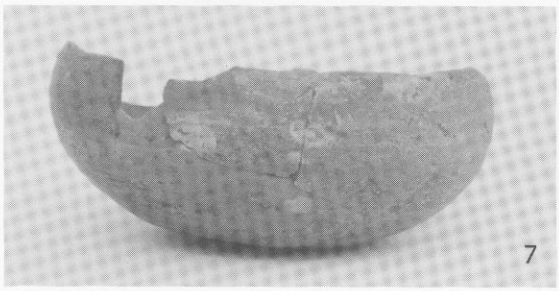


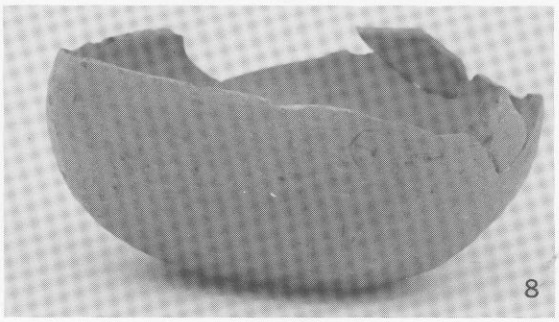












挿図対照番号

1.第6図　2.第8図1　3.第8図2　4.第8図3　5.第8図4　6.第8図5　7.第8図6　8.第8図7

鞭 掛 遺 跡

筑紫野市文化財調査報告書第17集

発 行 筑紫野市教育委員会
福岡県筑紫野市大字二日市753-1

印 刷 栄光印刷株式会社
福岡市東区箱崎下入道800